

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100205		
法人名	有限会社 すまいる		
事業所名	グループホーム あおば		
所在地	大分市大字金谷迫1493-14		
自己評価作成日	平成26年3月11日	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivosyoCd=4490100205-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivosyoCd=4490100205-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府吉番館 !F		
訪問調査日	平成26年3月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>市街やショッピングセンターなどに出掛けやすい場所に位置し、自然豊かな環境にも恵まれている。ご家族やご友人にも頻りに訪問頂き、入居者と一緒にお茶を飲んだり編み物をされたりゆっくりと過ごして頂ける家庭的なホームである。 車椅子用特殊入浴装置を設置しており、ADLの低下した入居者も安心してゆっくり入浴して頂ける。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は大分インターに程近い、利便性の良い地域に位置し周囲にはみかん、イチゴ畑があり、自然を満喫できる落ち着いたホームです。家庭的な雰囲気作りと、利用者一人ひとりが生き生きとした生活が送れるようお手伝いし、自分が入所したくなるホームを目指すことを運営方針とし、日々支援に邁進しています。管理者の熱心な思いに、職員も研修や勉強を通じ、ケアの質の向上に努めるとともに、情報交換ノートには利用者の気づきを書き職員間で共有し、充実した経過記録を作成するとともにサービスに活かしています。又、重要事項を記した文書の雛形を公開する仕組みもあり、訪問した誰もが閲覧できるようにしています。法人としての使命「当たり前」の事を、当たり前に行う」を努力目標にしており、今後も期待される事業所です。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に理念を印刷しており、日々のケアの中で意識している。 月1回のスタッフミーティングにおいて具体的なケア方針の統一を図っている。	法人の理念を事業所の理念及び運営方針としています。理念は研修等で見直しを行い、柔軟に対応ができるようにしています。名札の裏やホールに掲示することで理念の共有に繋げており実践に向け努力をしています。	研修等で理念の実践に向け、反省し努力されており、その継続を期待するとともに、理念を柱に事業所として目指す方向性を話し合い、独自の目標を作られると更にケアの質の向上に繋がると考えられます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けるときなど地域の方々や挨拶を交わしたり会話を楽しんだりしている。 自治会にも加入しており地域の方がボランティアに来て頂いたりもしている。	自治会に加入し、相互の行事参加を通して、交流を積み重ねています。近所にある公民館の庭の桜を見学したり、避難訓練には地域の方も参加されています。又、事業所での敬老会には地域の方を招待し食事会を行う等交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じて地域の方々に介護のことや認知症についてなどの相談はいつでも応じる旨伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、市役所職員や地域包括支店センター、自治会長、区の代表、民生委員、家族代表が参加している。 取り組み状況の報告や話し合いなどが行われ、参加者の意見は運営に反映している。	運営推進会議は各分野からの委員で構成され、定期的開催されています。家族の出席も多く、食事について意見が出され、玄関の掲示板にメニューを張り出したり、又、内容について参考になる助言もありサービスの向上に活かしています。	会議では事業所の取り組み内容や改善課題が話し合われ、有意義で双方向的な会議が行われていますが、更に職員が交替で参加し、直接参加者の助言を聞くことも、会議に対する意識改革に繋がると考えられます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市役所職員に参加して頂き、ホームの活動報告やケア方針などを伝えアドバイスを頂いている。	市担当者には運営推進会議の案内や介護認定更新等、機会あるごとに出向き、事業所の情報発信をしており、相談し助言を頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。 安全管理のためにセンサーを使用する場合がありますがご家族と同意書を交わし、説明を行っている。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、禁止の対象となる行為やリスク、弊害について、職員間の共有認識を図るよう取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティングの議題に何度も取り上げ、虐待をしないよう、見過ごさないよう話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用している入居者はいないが、要望があったりや活用が必要であると思われる場合には支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望などは面会時など積極的に聞いている。 手紙やインターネットを利用してホームの取り組み状況などをご家族に見て頂き、意見ももらっている。	利用者、家族の意見、要望はアンケートの実施や面会時に面談をし確認しています。運営推進会議の家族の出席も多く、その中で意見が多く出されています。意見、要望は前向きに受け止め、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングで意見交換を行い、運営に関することや勤務体制について検討している。	月1回の会議等で職員のアイデアや日常の業務について活発な意見を出し合っています。管理者は運営に関する意見や提案を活かし、職員の意欲の向上やサービスの質の確保に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休日や希望する時間帯での勤務を反映できるよう心掛けている。 勤続年数や勤務態度などに応じて昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には経験や資格に応じて積極的に参加させている。 研修で学んだことなどを日々のケアの中やスタッフミーティングにおいてバックアップしてスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護施設関係者が集まる研修会や講習会などに積極的に参加している。 他のグループホームを見学したり他のホームの方々に見学に来て頂いたりして意見交換をしサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心してホームで生活を送って頂くために好きなことや苦手なこと、要望などを会話の中で聞き出している。 他の入居者との関係づくりも職員が協力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接調査時などにご家族の要望などを聞いている。 入居時の流れやその後のことなどご家族の不安がなくなるよう話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族が希望している支援を見て、聞いて、判断する努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事など入居者が出来る範囲で積極的に参加して頂いている。 一緒に行う中で教えられることも多く、お互いに支えられていることを実感できる場面となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加のイベントなどを通じてより良い家族関係の構築に努めている。 ケアで問題などが発生した場合、ホーム内だけで解決するだけでなくご家族の意見や要望を取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出の場所などを聞き出してお連れしたり、ご家族に協力して頂き、馴染みの方々が集まったときにお連れしたり、馴染みの関係が維持できるよう協力している。	利用者は近くの方が多く、家族、親類、友人等が、よく面会に訪れています。中には帰省し、馴染みの方を招き会食をしたり、外泊支援をする等家族の協力の基、個別支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係についてスタッフは情報を共有し、関わり合いが良くなるよう努めている。 ホールでの座る位置なども関係を把握し、変更している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には出来るだけ詳細な情報を提供し、相談などあれば随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員による日々の関わりの中での情報、ご家族による生活歴などの情報などから本人の希望や意向の把握に努め、ミーティングで検討している。	利用者の意向の把握には、職員の問い掛けも重要である事を全職員に周知徹底されており、部屋で一人の時や入浴時、利用者同士の会話の中で話を聞く機会を大切にしています。把握できた思いは、ミーティングでその情報を共有し支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時にご本人、ご家族とこれまでの生活歴などを聞いている。 入居時にご家族にアセスメントシートを提出して頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察により心身の状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にはご本人、ご家族、職員の意見や要望を聞き、反映している。 短期目標に沿ってモニタリングを行い、見直している。	利用者及び家族、関係者の意見やアイデア、職員の気づきや観察結果を反映し介護計画が作成されています。見直しは半年毎に行っていますが、家族と連携をとり、利用者の急変時に備え、その都度介護計画の見直しの出来る体制を整えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子などはミーティングや介護記録などによりスタッフ間で共有しており、ケアプラン作成時には参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な発病時などは病院への付き添い受診等を行っている。 各種申請手続き等はホームにて代行している。 その他、ご本人やご家族からの要望には出来る範囲対応していくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には市役所職員、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長等に参加して頂き、地域情報の提供をお願いし、活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診を2週間に1回実施している。 その他、訪問歯科、訪問リハビリ、訪問マッサージなども受けることが可能である。 科目によっては外来受診もしている。	受診や往診において、個々の利用者の意向に基づいた医療支援(医師・歯科医師)が行われています。情報は家族と職員間で共有されており、健康(心身)状態に留意する中で、日常の暮らしの支援に繋げています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師を中心に入居者の健康管理については常に話し合いを持ち、往診時に正確な情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診や定期的な検診により入居者の情報を把握して頂いている。 その他でもいろいろと相談に乗って頂いており、いい関係づくりが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末ケアに対し、早めにご家族の意向を確認している。 ホームでの看取りケアを希望された場合は訪問診療、訪問看護を利用している。	終末期の取り組みにおいては、看取り支援を表明しており、入所時の概要説明が行われています。利用者の状態の変化に即した看取り対応に取り組む中で、医療機関との連携を基盤に、家族等との話し合いや意思確認を遂行しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急のマニュアルを作成し、ミーティングで実際に発生した際の流れや実際に発生した際どうだったかなどを話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対する訓練を地域の自治会と協力して合同で行うなど、職員だけでなく地域の方々と協力して対応できるようにしている。	消防署の指導を受けて、施設主催による地域タイアップ型の避難訓練(火災)に取り組んでおり、夜間想定訓練や布団による実地避難も行われています。危機感を持って行動できる体制づくりを通し、安全対策に積極的に努める姿勢が伺えます。	迅速な避難誘導と利用者の安全対策の強化を目指して、避難後の利用者の容易な判断手段への工夫や地域協力(近隣住民による見守り)などの取り組みにおいて、全職員間での協議に期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けやトイレ誘導など、プライドを傷つけないよう支援している。 食事介助も一人ひとりのペースに合わせて介助している。	「尊厳」、先輩である利用者に対しての言葉づかい等、プライバシーの保持について理解を深める支援の姿勢が伺えます。職員間の協調性の大切さを把握しており、チームワークに基づく日常の支援体制づくりに努めています。	「協調・安心・快適」な環境づくりに努める中で、利用者の尊重・家庭的な施設としての取り組みの姿勢が伺えます。接遇・コンプライアンス等を含めた総合的な研修による全職員間の周知・実践に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	テレビを見る、お部屋で過ごす、書道をする、編み物をする、散歩に行くなど提案した中で決めて頂いたり、ご本人から希望があったときなどは実行したり計画を立てるなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務中心でなく、入居者一人ひとりの生活リズムを尊重するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えのときに一緒に選んだり、散髪するときもご本人がしたい髪型をお願いしたりしている。 毎日お化粧をされている方もおられ、化粧品の購入の際に同行し選んで頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みなども反映したメニュー作りに心掛けている。 ホームで調理しているので調理のお手伝いをして頂いたりもしている。	嗜好の把握にも留意(家族の意向を確認する仕組み)する中で、ユニット毎にバランスを考慮した献立づくりに取り組んでいます。合同の食事会や季節のイベント食、お手伝いによる興味など、食事への関心や食卓の雰囲気大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量に気を配っている。 一人ひとりの健康状態にも十分注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援や声掛けを行っている。 定期的に訪問歯科による専門的な口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛け、オムツ交換などしている。 なるべくトイレで排泄できるように自立に向けた取り組みをしている。	利用者の状態の変化・排泄パターンを全職員間で共有する中で、自立支援(トイレでの排泄)に積極的に取り組んでいます。統一性のある援助の重要性を把握しており、利用者の仕草等による気づきを大切に、職員間での周知に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で発熱や不穏行動など日常生活に影響が出ることは理解している。 水分摂取を促したり散歩や体操等により便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の楽しさを忘れてしまわないためにも入浴日にはいろいろな方法で誘導し、みなさん入浴して頂けるよう努めている。 一人ひとりの機能に合わせた入浴設備で入浴して頂いている。	ユニット間の共有による入浴設備(機械)が活用されており、週2回の基本支援と心身の状態に合わせた臨機応変なケアに留意しています。個々の利用者との交流・信頼関係を大切に、安心感と心地よさ・楽しめる援助への工夫に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて日中の活動を促し、夜間ゆっくり眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が二重確認している。 薬品説明書をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。 薬の変更などがあった際は内容などチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食器の片付け、掃除、洗濯などで出来ることなどは一緒に行っている。 何か役割を持つことによりいきいきとした表情が見られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や外気浴など行っている。 希望を聞き、ドライブや買い物に出掛けたりしている。 ご家族と外食を楽しむ方も多い。	心身の健康状態や、個々の思いに寄り添える配慮への支援として“個人・単数”による外出支援(カフェ・買い物・お墓参り・レクドライブ等)へと変更に取り組んでいます。日常の散歩や庭の手入れ・外気欲による気分転換も図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に多額の金銭は持ち込まないようご家族にお願いしているが、買い物などするときはホームから金銭をお渡し、自由に買い物できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご家族に電話したり、友人などに手紙を出したりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や空調を居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。 季節に応じて模様替えしたり入居者の作品や写真を飾るなど工夫している。	利用者の安全と安らぎを考慮しながら、リラックスできる共用空間の中で、和める雰囲気づくりを支援しており、趣味(編み物・書道・俳句等)・季節の装飾作成(職員と一緒に)に取り組んでいます。相性への配慮によるくつろぎ支援にも留意しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに出てきて一人ひとりが思い思いに過ごして頂けるようにテーブルやソファなどの配置などをたびたび話し合っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりのお部屋には使い慣れた家具を置いたり、写真、作品などを飾ったりするなど居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	安心な暮らしと安全への配慮として、個々の暮らし易さ・リラックスできる環境づくりに積極的に取り組んでいます。家族との交流を大切に、個性(特徴)を取り入れた心地よく過ごせる居室作りに努める職員の姿勢が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のお部屋やトイレが分かりやすいよう工夫している。 ホーム内はすべてバリアフリーで、要所には手摺りを設置するなど安全に生活できるようにしている。		